

2017年6月4日

## 福音書からのメッセージ

そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

(ヨハネによる福音書 20 章 22～23 節)

今日は聖霊降臨日です。十字架上で息を引き取られたイエス様は墓に葬られ、三日後に墓からよみがえられて、復活の姿を多くの人たちに現し、天に昇られました。そしてその 10 日後に約束の聖霊を弟子たちに与えられます。ルカ福音書と使徒言行録には、このような出来事が語られています。しかしヨハネによる福音書を読んでみますと、この流れとは随分違ってきます。また流れだけでなく、使徒言行録のように炎のような舌が頭の上に乗るといった出来事もあります。あるのは復活したイエス様が、直接弟子たちに息を吹きかけられるという描写です。

この二つの物語、まったく違う聖霊降臨の物語に見えますが、どちらもまぎれもない真実です。それだけではなく最初の聖霊降臨から 2000 年の間、多くの人々が復活のイエス様と出会い、それぞれに違った聖霊降臨の体験をしてきたことなのでしょう。使徒言行録のように、何か熱いものが上から与えられたという経験をした人もいたことでしょうし、ヨハネ福音書のようにイエス様の息を感じることでできた人もいたことなのでしょう。またそれらとは全く違う経験もあったと思います。

わたし自身考えてみても、いつ聖霊が与えられたかというような体験は思い出せないものの、聖霊の働きを感じることはよくあります。説教をしているときに、ふと思いもしない言葉が口から出ていくことがあります。そのようなとき、あとから、



「あの言葉は自分に対して語られた」と言ってこられる信徒さんがいます。自分の心の内を見透かされているような感じがしたと思ったら、今、自分に必要な言葉を与えられたのだと。

でもそれは、正確にいうとわたしが語った言葉ではありません。わたしが何かをしたわけでもないので。神さまがわたしの口を通して、その人に語ったのです。これを聖霊の働きと言わず、何とさえいいのでしょうか。

思い出してみればこれまでの人生の中で、嬉しいことも、辛いこともありました。喜びにあふれたこともあったし、涙が止まらない、そんなこともありました。しかし振り返ってみると、すべては神さまの導きであり、聖霊の働きであると思います。

聖霊の働き、それは言葉にすることはとても難しいです。でも、神さまを信じていることで起こった不思議なこと、思いもしないことと言ったらどうでしょう。それだったらあるよ、という人はおられるかもしれません。それこそが、聖霊の働きです。それがわたしたちに起こっている、聖霊降臨の出来事です。神さまの力によって、聖霊の働きによって、わたしたちは日々生かされているのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>